

## 第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本代表作家及び日本館キュレーター決定のお知らせ

2013年6月から11月にかけて開催される第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本代表作家及び日本館キュレーターが決定しましたのでお知らせいたします。貴社媒体でのご紹介をどうぞよろしくお願いいたします。今後、展示作品の詳細など決定しましたら随時ご案内申し上げます。

### 第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示

作家：田中 功起（たなか こおき）

キュレーター：蔵屋 美香（くらや みか） 東京国立近代美術館美術課長

主催：国際交流基金

#### 【作家略歴】

田中 功起（たなか・こおき）

1975年生まれ。現在ロサンゼルス在住。日常のシンプルな行為に潜む複数のコンテクストを視覚化／分節化するため、主に映像や写真、パフォーマンスなどの制作活動を行う。近作では、特殊な状況に直面する人びとが見せる無意識の振る舞いや反応を記録し、私たちが見過ごしている物事の、オルタナティブな側面を示そうとしている。主な展覧会に森美術館、パレ・ド・トーキョー（パリ）、台北ビエンナーレ 2006、光州ビエンナーレ 2008、アジア・ソサイエティ（ニューヨーク）、横浜トリエンナーレ 2011、ヴィッテ・デ・ヴィズ（ロッテルダム）、イエルバ・ブエナ・センターフォー・ジ・アーツ（サンフランシスコ）などがある。2012年6月には「Made in L.A.」（ハマー美術館、ロサンゼルス）への参加が予定されている。

（アーティストの日本語のページ：<http://www.kktnk.com/alter/>）



photo : 名和真紀子

#### 【キュレーター略歴】

蔵屋 美香（くらや・みか）

東京国立近代美術館美術課長。千葉大学大学院修了。主な企画に、「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」（2009年、東京国立近代美術館、三輪健仁と共同キュレーション）、「寝るひと・立つひと・もたれるひと」（2009年、同）、「いみありげなしみ」（2010年、同）、「路上」（2011年、同）、「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」（2011-12年、同）。主な論考に「麗子はどこにいる？—岸田劉生 1914-1918 の肖像画」（『東京国立近代美術館 研究紀要』第14号、2010年）。



## 【キュレーター ステートメント】

かつてない規模の東北大震災を経験した日本は、世界に向けてどのようなメッセージを発するべきでしょうか。第 55 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展において、日本館の作品は、いかなる形の表現を取るものであれ、この問いを回避することはできません。

今回のプランでは、アーティスト、田中功起の映像作品とインスタレーションにより、「他者の経験を自分のものとして引き受けることはいかにして可能か」というテーマに取り組みます。

アーティストである田中もキュレーターである私も、停電や放射線被害など、部分的には震災を経験しています。しかし、近親者や家財を失った人々や、原発事故により生活圏から離れざるを得ない人々の壮絶な経験については、想像力を駆使する、忘却しない、程度のことしか、アクセスの方法を見つけられずにいます。

しかし、このような中で、さまざまな大小、濃淡で震災を経験した者同士が、あるいは遠く離れた国や地域に住む人々が——ビエンナーレを訪れる観客の大半がそうでしょう——、または時間を隔てた後代の人々が——今回の震災に限らず、戦争をはじめ、厄災はこれから幾度でも起こりえます——何らかのかたちで経験を共有するための可能性を探ることはできないでしょうか。

今回のプランは、こうした経験共有のためのプラットフォームとなることを願って作られたものです。概要は下記の通りです。

- (1) 震災のさまざまな側面に直接的、間接的に言及するいくつかの「練習問題 (exercise)」を設定します。
- (2) これらの「練習問題」への取り組みを、複数の人々から成るグループに依頼し、協働作業の過程を 10 本前後の映像作品にまとめます。  
「練習問題」とグループの例：
  - ・ 高層ビルの非常階段を、できる限り音を立てず大勢で下りる（オフィスワーカーたち）。
  - ・ もしこの職業に就かなかったら何をしていたと思うか話し合う（電気関係の仕事に従事する人々）。
  - ・ 壊れた複数の陶器の破片から一つの陶器を復元する（修復家たち）。
- (3) 加えてこれらの映像を、指定された素材（毛布、アルミシート、木材）のみを用いて建築関係者のグループがデザインした個々の作品用のブースに展示し、会場を構成します。

蔵屋 美香（東京国立近代美術館美術課長）

## 【アーティスト ステートメント】

例えばぼくらは自分自身の中に複雑な問題を抱えている。それは個々の固有の問題なわけだし、それが誰かの問題と交わることはあまりないだろう。問題はいつも痛みを伴い、その痛みは他者とは共有できないものだ。例えば同情や共感、痛みを持つ者と持たぬ者のボーダーをむしろ強化してしまう。同情のベクトルは常に痛みを持たぬ者から持つ者へと向かっている。逆はありえない。だからぼくらは同情ではなく、別の方法でもって関わりを模索するべきだろう

震災から一年以上が経過したが、いまだに瓦礫の処理や仮設住宅、原発の問題も含めて状況は続いている。震災の後、たくさんのアーティストや建築家、音楽家、映像作家などが現地でボランティアをしたり、自身の活動を反映した行動を起こしたりしている。それは一時的な反応ではなく継続的なものだ。今年の建築ビエンナーレの日本館でもそうしたプロジェクトのひとつが発表される。震災後の最初の数ヶ月、多くの日本人アーティストが抱いた問いは「アートはこの出来事に対してなにができるのか」であった。そしてその問いはいつも多くのアーティストの中で問われ続けていると思う。直接的な行動を起こすものもいれば、以前と変わらぬ活動を続けることで間接的に応えようとするものもいる。

ではこのぼくには何ができるのだろうか。いや、ぼくにとっての問いはむしろ、この出来事がぼくらにもたらしたものは何かを考えることだ。そのひとつは、おそらくいままでの日本にはなかった社会的に共有される強烈な文脈が生じたということだ。この文脈を通して日本社会を見ると、ぼくらの何気ない行為は、あの日を境に別の背景を持つことになった。例えばぼくらはときに階段を使う。エレベーターやエスカレーターを使わずに階段を使う。いままでならば健康のためやエコロジーのためと言うこともできただろう。でも、いまこの日本において、「ただ階段を上り下りする」という行為は別様に読み替えることができるはずだ。それはいわば電気(=原子力発電)に頼らないという態度でもある、もちろん本人たちにはその意図がないのだとしても。たくさんのひとが階段を下りる姿を東京の駅で見かけたとき、ぼくにはそれがある種のデモンストレーションに見えた。新しい行動を起こすのではなく、いままでのぼくらの行為を見直し、抽出し、背景を読み替えること。そうすることによって、特定の地域における特殊な問題は広く一般化され、誰も無視することができなくなるだろう。

田中 功起

## 【ヴェネチア・ビエンナーレ (Biennale di Venezia) について】

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895年に最初の美術展が開かれて以来、100年以上の歴史を刻んでいます。

近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」(3年に一度)と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。

現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち美術展は、最先端の現代美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

2011年の第54回美術展では89か国の参加国、44万人を超える総入場者数と、ともに過去最高を記録し盛況のうちに終了しました。

第55回ヴェネチア国際美術展 2013年6月初旬から11月下旬(予定)  
総合キュレーター: マクシミリアーノ・ジオーニ  
公式HP: <http://www.labiennale.org/en/biennale/index.html>

### 本事業に関するお問合せ:

国際交流基金  
文化事業部 欧州・中東・アフリカチーム  
森多恵、小山田洋子

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1  
T.03-5369-6063 F.03-5369-6038  
mail:venezia@jpf.go.jp

### 取材・広報用画像のお問合せ

国際交流基金(担当 平昌子 (TAIRAMASAKOPRESSOFFICE))  
mail: venezia@jpf.go.jp  
T. 090-1149-1111

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1  
[www.jpf.go.jp](http://www.jpf.go.jp)

【広報用写真】

広報用写真をご用意しております。ご使用希望の媒体は、①希望画像の番号、②媒体名、③掲載予定時期を表記の上、[venezia@jpf.go.jp](mailto:venezia@jpf.go.jp) 担当：平(たいら)までご連絡ください。

※ご使用時の注意点とお願い

- ・お写真使用の際は画像下部表記のクレジットの掲載を必ずお願いいたします。
- ・トリミング、文字載せは不可、WEB 掲載の時は PDF 形式でお願いいたします。
- ・二次使用は禁止願います。
- ・使用の際は事実関係の確認の為、記事校正を必ずさせていただきます。
- ・掲載誌又は、掲載記事を担当者までお送り願います。



① A Haircut by 9 Hairdressers at Once (Second Attempt)  
2010  
HD ヴィデオ (28 分)、美容師によるドローイング 2 点  
Created with Yerba Buena Center for the Arts, San Francisco  
Courtesy of the Artist, Vitamin Creative Space,  
Guangzhou and Aoyama Meguro, Tokyo



② A Piano Played by Five Pianists at Once (First Attempt)  
2012  
ヴィデオ・インスタレーション HD ヴィデオ (57 分)、ドローイング  
2 点、仮設壁  
Created with University Art Galleries, University of California, Irvine  
Courtesy of the Artist, Vitamin Creative Space, Guangzhou and Aoyama  
Meguro, Tokyo



③ A Whole Museum Could Be Used at Once  
2011  
横浜美術館 (「横浜トリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR」展示風景)  
映像 5 点、トレーシングペーパーに白黒プリント 18 点、美術館の備品、  
など  
Courtesy of the Artist, Vitamin Creative Space, Guangzhou and Aoyama  
Meguro, Tokyo



④ photo : 名和真紀子 (Makiko Nawa)